

## 平成28年9月～平成29年8月の活動ピックアップ！

このコーナーでは、平成28年9月から平成29年8月までの活動のうち、主なものをピックアップしてご紹介します。

### 第32回総会及び記念講演会

【開催日】平成29年4月26日（水）

【開催地】松山市（松山全日空ホテル）

【参加者】総会114名（会員のみ）、記念講演会130名（非会員含む）

第32回総会では、平成28年度事業報告、平成28年度収支決算報告、平成28年度会計監査報告、平成29年度事業計画（案）、平成29年度収支予算（案）及び役員選出（案）について審議され、いずれも満場一致で承認されました。

その後、平成28年度調査研究活動の成果報告が実施され、会員委託調査研究2件の発表がありました。

総会記念講演会では、香川大学瀬戸内圏研究センター 特任教授 日本遠隔医療学会 会長 原 量宏 氏から「香川県で開発された周産期管理システム、モバイルCTGのグローバル展開への道」と題する講演と、株式会社愛媛CATV 取締役会長 株式会社四国中央テレビ 代表取締役社長 神山 充雅 氏から「大荒れ！メディアの世界とケーブルテレビ」と題する講演が行われました。



第32回総会の模様



原講師による記念講演



神山講師による記念講演

# 情報通信セミナー

## 1. ICT/IoTの利活用と地方創生セミナー in高知

【開催日】平成29年2月22日（水）  
 【開催地】高知市（高知市文化プラザかるぽーと）  
 【参加者】96名

本セミナーは、「海を拓き、森を造り、人を育てる」と題して、総務省情報流通行政局地域通信振興課から「地域活性化に貢献するIoTについて」の講演の後、地域産業の中心でもある第一次産業（農林水産業）分野や地域を支える人材育成のための教育分野において、ICT/IoT利活用の導入事例等を紹介して、利活用の動向について理解を深めるとともに、新たな地域の活性化手法等について考えました。



セミナーの様相

## 2. テレワークの推進の状況と総務省の取組及びIT企業の実例の紹介

【開催日】平成29年7月7日（金）  
 【開催地】松山市（アイテムえひめ）  
 【参加者】102名

総務省情報流通行政局情報流通振興課からの、テレワークの社会的背景、政府の方針、テレワーク関係府省の連携、総務省における推進の取組、総務省のテレワーク導入状況、テレワークによるワークスタイルの変革例とテレワーク・デイについての映像を交えての解説の後、サイボウズ株式会社と富士通株式会社から、それぞれの社内事例や働き方改革の取組について説明されました。



セミナーの様相

## 3. こうち安芸でICTと人づくりシンポジウム

【開催日】平成29年8月29日（火）  
 【開催地】安芸市（安芸市総合社会福祉センター）  
 【参加者】74名

主体的・協働的で深い学びを可能とし、学びを妨げる障害を改善・克服するなど、多様な効果を持つICTの活用（教育の情報化）について、総務省情報流通行政局情報通信利用促進課長による基調講演と、総務省地域情報化アドバイザーによるパネルディスカッションと分科会を行い、教育関係者や地域の皆様と話し合いました。



シンポジウムの様相

# 地域情報化研修会

## ICT研修会 in 四国大学

【開催日】平成29年2月3日（金）

【開催地】徳島市（四国大学）

【参加者】45名

本研修会は、西日本電信電話株式会社、富士通株式会社からICT教育分野の事例を紹介し、その後、四国大学芸術館（レコーディングスタジオ、ボーカロイド制作ラボ、液タブ、3Dプリンタ等）と四国大学情報メディア館（映像制作スタジオ、CG・映像編集・DTMラボ等）を見学し、ICT教育現場について理解を深めました。



研修会の模様

# ICT研究交流フォーラム

## 1. 第18回技術セミナー

【開催日】平成28年9月9日（金）

【開催地】高知市（高知工科大学 永国寺キャンパス）

【参加者】53名

本技術セミナーは、「防災・災害対策とICTに関する技術セミナー」と題して、30年以内に70%程度の確率で起こるとされる南海トラフ地震への備えを念頭に、防災・災害対策としてのICT利活用や研究開発の状況を紹介しました。

最初に、香川大学工学部（危機管理先端教育研究センター 併任）教授 井面 仁志 氏と助教 高橋 亨輔 氏から「遠隔仮想防災訓練シミュレータによる遠隔地訓練への取り組み」を、国立研究開発法人 情報通信研究機構 総合テストベッド研究開発推進センター 専門調査員 鷹取 耕治 氏から「NICT総合テストベッドの概要について～テストベッドを活用した地域防災研究例紹介～」を、KDDI株式会社 復興支援室 室長 阿部 博則 氏から「東日本大震災からの復興に向けた取り組み」を、一般社団法人九州テレコム振興センター 専務理事 広岡 淳二 氏から「熊本地震について」をそれぞれご講演いただきました。

その後、講師の方々と災害に役立つICTについて意見交換等を行い、防災分野におけるICT利活用の動向について理解を深めるとともに、ICTによる新たな課題解決方法等について考えました。



技術セミナーの模様

## 2. 技術勉強会

【開催日】平成28年11月22日（火）

【開催地】丸亀市（三菱電機株式会社 受配電システム製作所）

【参加者】18名

本技術勉強会は、ICT社会における最新の直流配電システムに関する技術動向や利用状況などについて、理解を深めることを目的として開催しました。

最初に、工学院大学工学部電気システム工学科 教授 野呂 康宏 氏から「次世代電力システムにおける直流給配電の研究動向について」を、三菱電機株式会社 受配電システム製作所 営業部スマートエネルギー営業課 課長 筒井 俊男 氏から「スマート中低圧直流配電システムについて」を、渦潮電機株式会社 イノベーション本部 ITイノベグループ 石井 誠一郎 氏から「船用リチウムイオン電池を応用した取組について」を、それぞれご講演いただきました。

その後、中低圧直流配電システム実証棟の見学と三菱電機株式会社受配電システム製作所の工場見学を行い、実際の直流配電システムなどについて学びました。



技術勉強会の模様

## 3. 第19回技術セミナー

【開催日】平成29年6月29日（木）

【開催地】高松市（情報通信交流館 e-とびあ・かがわ）

【参加者】69名

本技術セミナーは、「ICT/IoTによる地域課題解決に向けた技術セミナー」と題して、ICTの農業利用とIoT時代の無線通信システムに関する技術動向を紹介しました。

はじめに、総務省の委託事業である戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）の成果発表として、国立大学法人 愛媛大学植物工場研究センター 教授 有馬 誠一 氏から「ICT利用による情報化農業確立のための害虫発生モニタリングシステムの開発」について、講演がありました。

続いて、地域IoT実装推進に向けた技術動向に関する講演として、日本アイ・ビー・エム株式会社 インダストリー・ソリューション事業開発 梅田 浩之 氏から「LoRa及びLoRaWANの概要とIBMの取組」について、西日本電信電話株式会社 アライアンス営業本部ビジネスデザイン部 ビジネスクリエーション部門事業開発担当 主査 黒木 匡 氏から「LPWAネットワークを活用した新たなビジネス創出に関するNTT西日本の取組」について、国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）経営企画部統括 オープンイノベーション推進本部統括 島田 淳一 氏から「NICTにおけるオープンイノベーション戦略とスマートIoT推進フォーラムの活動について」をそれぞれご講演いただきました。

最後に、四国総合通信局 情報通信部長 松田 和男 氏から「総務省における地域IoT実装推進及びベンチャー支援への取組」について講演があり、ICTやIoTによる地域課題の解決方法等について考える機会となりました。



技術セミナーの模様

# コンテンツ部会

## 1. 高知県高等学校文化連盟放送専門部に対する映像制作活動を支援

【開催日】平成28年10月8日（土）、10月29日（土）、11月5日（土）

【開催地】高知市（学校法人土佐高等学校）

【参加者】54名（3回の合計）

本部会では、地域コンテンツを有効かつ効果的に情報発信できる人材の育成とコンテンツ流通の促進を図ることを目的として研修会を開催し、映像制作活動を支援しています。

研修会の講師には、株式会社テレビ高知映像CMディレクター横田 準也 氏を派遣し、映像表現の方法、撮影の基礎知識や映像の編集方法の説明を行いました。

研修後、生徒からは、「映像制作は楽しいと実感した。」「今まで時間をかけていなかったところも大切だと分かった。」「プロの話を聞いてこれからの映像制作への自信が湧いた。」などの意見が寄せられました。



映像制作研修会の模様

## 2. アプリ作成

### (1) アプリ作成勉強会

【開催日】平成28年12月5日（月）、12月6日（火）

【開催地】松山市（松山市立坂本小学校）

【参加者】10名

本勉強会は、子ども向けプログラミング言語によるアプリ作成を体験・学習することにより、ICT人材の育成及び地域活性化を図ることを目的として開催しました。

講師には、ハバス合同会社 エバンジェリスト 大富 仁 氏をお迎えし、視覚的にプログラミングを学べるソフト「Scratch（スクラッチ）※注」を活用したアプリ作成などについて説明いただきました。

参加した児童からは、「とても面白かった」と大変好評で、「アプリ作成の勉強をしてみたいという気持ちが強くなった」、「スクラッチをもっと利用してみたい」、「いろいろなアプリを作ってみたい」などの感想に加え、学校関係者からは、「子どもたちにとって有意義な時間だった」とのコメントが寄せられました。

※注：「Scratch（スクラッチ）」とは、MIT（マサチューセッツ工科大学）メディアラボが開発した、子ども向けのプログラミング言語学習環境。



大富講師による講義の模様

## (2) 地図アプリ作成研修会

【開催日】平成29年2月18日（土）  
【開催地】松山市（テクノプラザ愛媛）  
【参加者】12名

本研修会は、地図アプリの作成を体験・学習することにより、ICT人材の育成及び地域活性化を図ることを目的として開催しました。

講師には、ハバス合同会社 エバンジェリスト 大富 仁 氏をお迎えし、ナビゲーションアプリが簡単に作成できる地図ソフト「JOYMAP（ジョイマップ）」について、各種機能の紹介や作業プロセス、構成画面等の基本的な使い方の説明や、見出しの工夫点などのアドバイスをいただきました。

参加者からは非常に参考になったと好評で、「アプリ作成と聞くと難しいイメージで、研修会に参加するまで不安だった」という方からも、終了後には「JOYMAP（ジョイマップ）を今後も利用してみたい」、「いろいろな地図アプリを作りたい」との感想が寄せられました。



地図アプリ作成研修会の模様

## 3. 四国コンテンツ映像フェスタ2016上映審査会・表彰式

【開催日】平成29年1月26日（木）  
【開催地】松山市（ホテルJALシティ松山 現・ホテルマイステイズ松山）  
【参加者】60名

平成29年1月26日、松山市において、「四国コンテンツ映像フェスタ2016」上映審査会及び表彰式を開催しました。

まず、特別講演として、映画監督の大森 研一 氏から、「地域で映画を創るといふこと」と題した講演がありました。講演の中で大森氏は「地域映画は製作を通じて地域の人同士の連帯感の強まりや、外部目線での新たな地域の魅力の発見、精神面での交流の深まりなど、経済効果以上に得られるものがある。また、映画というアイテムは、劇場公開や国際映画祭への出品を終えた後にも、DVD化することで半永久的に残るものであり、地域特有の文化や伝統、精神性などを映像と音で永続的に伝えていくことができるのが魅力」と語りました。

その後、「四国コンテンツ映像フェスタ2016」の上映審査会を実施し、最優秀賞3点、優秀賞4点、特別賞1点が選ばれました。また、ゲスト審査員の大森監督選定によるコンテンツフェスタ10周年記念賞1点、来場者の投票により決定するオーディエンス賞1点が選ばれ、表彰されました。



特別講演の模様



受賞者のみなさま

## 4. 四国コンテンツシンポジウム in 高知

【開催日】平成29年7月5日（水）

【開催地】高知市（高知市文化プラザかるぽーと）

【参加者】45名

本シンポジウムは、コンテンツの利活用により、四国への観光客誘致、地域産業の海外展開、地域経済の活性化等をさらに促進するため、映像コンテンツを海外発信するうえでの留意事項と、海外展開の取組事例を紹介することを目的として開催しました。

基調講演では、放送コンテンツ海外展開促進機構（BEAJ）事務局次長 渡辺 圭史 氏から、放送コンテンツの海外展開においては、日本の放送局が現地で人気のある番組と共同制作することにより視聴率の確保に効果があった事例などが紹介されました。

地域の取組紹介及びトークセッションでは、司会の愛媛大学社会連携推進機構 教授 坂本 世津夫 氏、高知県まんが王国土佐推進課 課長補佐 田村 知之 氏、徳島県国際観光課 副課長 山田 寛之 氏、四国夢中人 代表 尾崎 美恵 氏、株式会社愛媛CATV 常務 白石 成人 氏、BEAJの渡辺氏が登壇し、「まんが」を通して文化、自然、食等を紹介する番組を制作し、国内外に放送した事業（高知県 田村氏）や、県内の伝統産業を取り上げた映像を地元放送局に制作を依頼し、その映像が台湾の放送局で放送されたこと（徳島県 山田氏）、フランス人ブロガーを招へいし、お遍路など香川県をはじめ四国の文化を発信してもらったこと（四国夢中人 尾崎氏）、愛媛県の偉人と地域をミュージカル等を活用して紹介する番組をハワイで放送した事例（愛媛CATV 白石氏）など、四国四県の取組が紹介されました。

その後、コンテンツを海外に展開するにあたっての課題をテーマに、自らの経験に基づいた意見が交わされたあと、BEAJの渡辺氏から海外展開を成功させるためには「各国で異なる各種規制への理解が必要」とのアドバイスがありました。

最後に坂本教授が「海外戦略を巡らし、海外に売り込む一つ的手段として、放送コンテンツの活用がある。今後は海外展開の新たな形として、制作したコンテンツで外貨と収益を得る方法を見つけ出すことも必要になってくる。」とコメントし、シンポジウムを締めくくりました。



トークセッションの様相